

平成 28 年度第 3 回小学校ゼミナール記録

2016 年 12 月 23 日（金）

於：広島大学 参加者：小村（授業者）・岡川・田原・西

1. 協議事項

広島大学附属小学校研究大会に向けての指導案の検討
小学校算数第 4 学年の「しりょうと整理」における授業づくり

2. 協議内容

研究授業に向けて、PPDAC サイクルをもとに指導計画が立てられた。研究授業では、データの分析に焦点を当て、収集した資料から必要な資料を判断して選び、表に表してその特徴や傾向を読み取ることを行う予定である。そこで、今回の検討では、研究授業までの時間に学習する内容と、研究授業での活動の流れについての 2 点に重点をおき話し合った。

まず、研究授業までの授業について。今回の研究授業では、PPDAC サイクルをもとにしているため、研究授業までの授業で、問題化を扱わなければならない。そこで、問題化の授業について議論した。2 クラスの給食の残菜のデータのみを児童に提示する。その際に不完全なデータを与えることで、他のクラスや学年のデータが知りたいなどと児童から意見が出ることを狙う授業を提案された。話し合う中で、色々な疑問が出て狙いが達成されるのではないかという意見にまとまった。しかし、そのあとの学習のテーマ設定をどのようにだすのかが問題となった。「残食ゼロをめざすには、どのような工夫をすればよいでしょう」というテーマを、児童がデータを見た後に教師の方から提示したのでは、児童の問題にならないのではないか。ゆえに、先にテーマを与えておいて、データを出すのか、さらに、テーマの表現の工夫、例えば「めざせ残食ゼロ」などと児童に親しみやすくするなどして、より児童が問題としてみなせるように改善する必要があるという結論に至った。

次に研究授業の活動について。授業の中で全学年の給食の残菜量のデータと、全学年の種類別残菜量のデータを与える。そして、児童はそのデータを表を用いて整理する。表からわかることをもとにして、残菜を減らすための改善策を考えるという授業である。まず、多くのデータが児童に与えられるが、児童は処理できるのかという疑問があがった。また、表で処理する際に一次元表をまずかき、二次元表をかくまでの時間が足りなくなる可能性や、そもそも二次元表を用いないという可能性が疑われた。それゆえに、その改善として、前時までの授業の中で、データの処理に慣れさせておくことや、グループ活動にして、分担して行うことで、時間短縮をはかるといった案が出された。

3. 今後の課題

児童にとっても問題となるように課題を設定すること。そして、児童が目的にあった資料を選択し、整理する活動がよりスムーズにできるように改善していく必要がある。

（文責：田原・西）